



総務省

遠隔診療に次世代移動通信(5G)活用の可能性を探る

—和歌山県内のへき地診療所・大学病院間で実証試験—

総務省は、3Gや4Gを発展させた移動通信システムとして「超高速」に加えて、「多数接続」「超低遅延」といった特徴を持つ第5世代移動通信システム(5G)の実現をめざし、様々な利活用分野で実証試験を行っています。

このたび、和歌山県において5Gの超高速通信を活用し、高精細の映像(外傷診断映像、超音波映像など)をリアルタイムにへき地診療所から大学病院へ伝送する実証試験が、平成30年2月20日から3月6日までの間、和歌山県立医科大学付属病院と日高川町国保川上診療所との間で実施されました。医療分野を代表する実証試験となっており、遠隔診療における高度医療の提供、患者・医師の負担軽減などが期待されます。

初日の2月20日には報道機関向けのデモンストレーションが行われ、川上診療所の医師が患者のエコー映像や皮膚の映像を伝送し、和歌山医大病院の専門医がリアルタイムに伝送される高精細な映像から適確に症状を把握し、診療所医師や患者に助言する様子が紹介されました。



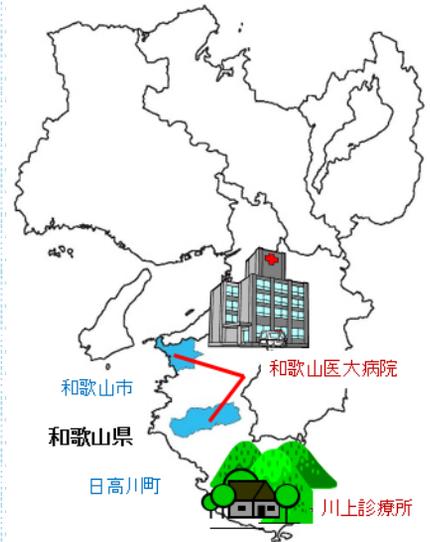
患者のエコー画像を伝送する様子
(右)川上診療所医師
(右上モニター)エコー画像
(左モニター)和歌山医大病院医師

川上診療所の患者はほとんどが後期高齢者で、医大病院へのバスの便も1日2往復、片道1時間30分と通院が難しい環境にあります。一方、医師は大学を出て診療所に派遣されるケースが多く、治療

の際に専門医の助言を必要とする場面も少なくないとのこと。専門医も、鮮明でリアルタイムに確認できる映像があるとその場ですぐに症状が把握でき、診療所医師や患者に対してタイムラグがなくスムーズなコミュニケーションができます。5G映像は、特に鮮明な画像が求められる皮膚の疾患や、エコー検査などに大変効果的であるとのことでした。

実証試験に参加された患者ご本人も、医大病院まで出向かなくても、診療所で専門医の話を聞いて大変助かると話されていました。

総務省は、2020年の5Gの実現を目指し、これら実証実験の取組を加速してまいります。



伝送された皮膚の疾患の映像 (上)5G映像、(下)従来映像



川上診療所のある日高川町



総務省

不法無線局の取締り協力で捜査機関に感謝状を贈呈 —電波利用の秩序の維持に貢献される—

近畿総合通信局は、安心・安全な社会生活を支える良好な電波利用環境の維持、整備に努めるとともに、不法電波の撲滅を目指して不法無線局の捜査機関との共同取締り等様々な取組を強化しています。

今般、不法無線局の取締りを積極的に行い、多大の効果を上げ、電波利用秩序の維持に大きく貢献された10捜査機関に対して感謝状を贈呈いたしました。



大阪府淀川警察署



大阪府交野警察署



兵庫県佐用警察署



神戸海上保安部



関西空港海上保安
航空基地



姫路海上保安部



和歌山海上保安部



田辺海上保安部



岸和田海上保安署



加古川海上保安署

近畿総合通信局は今後も捜査機関と連携し、快適で安心・安全な社会生活を支える良好な電波利用環境の維持及び整備に努めてまいります。

当局における不法無線局の対策につきましては、以下のwebサイトをご覧ください。

→ <http://www.soumu.go.jp/soutsu/kinki/kankyau/kanshi/countermeasure.html>

サイバー攻撃の脅威から中小企業が身を守るために —セキュリティ連携セミナーで講演—

平成30年2月14日、大阪市内で、中小企業の関係者を対象に情報セキュリティ対策の重要性を呼びかける「セキュリティ連携セミナー」が開催されました。



セミナーの様様

同セミナーは、当局と近畿経済産業局との連携強化を前提に、経済産業省所管の(独)情報処理推進機構等が主催し、当局と近畿経済産業局が共催して開かれたものです。

当局からは、情報通信部の吉田丈夫電気通信事業課長が「総務省におけるサイバーセキュリティ政策の最新動向」と題して、サイバーセキュリティ上の脅威の現状、政府全体の取組と総務省の役割を説明した上で、脆弱性対策や(国研)情報通信研究機構を中心としたセキュリティ技術の研究開発の動向、民間企業のセキュリティ向上のための各種施策や人材育成の強化などについて紹介しました。